

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

安曇野市教育委員会学校教育課
教育指導室

「令和 8 年度全国学力・学習状況調査」が 4～5 月に、市内小中学校全 17 校で実施されました。その結果が 7 月 27 日（英語「話すこと」は 9 月 2 日）に文部科学省から公表されたので、その概要を報告します。

今後は、安曇野市教育委員会として教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と協働して組織した学力向上推進委員会にて結果の詳しい分析・考察を行ってまいります。

調査の概要

○調査の名称 令和 8 年度全国学力・学習状況調査

○実施日 教科に関する調査 令和 8 年 4 月 23 日（木）

中学校英語

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」 4 月 20 日（月）から 23 日（木）

「話すこと」 4 月 24 日（金）、27 日（月）

児童生徒質問に関する調査

小学校 4 月 24 日（金）～5 月 8 日（金）

中学校 4 月 20 日（月）～23 日（木）

○実施学年 小学校 6 年生（10 校、国語 693 人、算数 694 人、質問調査 682 人）

中学校 3 年生（7 校、国語 659 人、数学 663 人、英語 3 技能 658 人

英語「話すこと」622 人 質問調査 657 人）

○調査の内容

① 教科に関する調査

・小学校…国語、算数（2 教科）

・中学校…国語、数学、英語（3 教科）

※ 中学英語は一人一台端末を用いて、共通問題、個別問題（非公開）で実施。

②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査

各教科の学力状況

●傾向と課題

各教科の全体の平均正答率をみると、小学校では、全国や県と比べて「下回る」から「ほぼ同じ」でした。中学校では、全国や県に比べて「少し下回る」から「少し上回る」という結果でした。

具体的には、小学校の国語は全国、県とほぼ同じでした。算数は全国を下回り、県を少し下回りました。中学校の国語は全国を少し上回り、県とほぼ同じでした。数学は全国を少し下回り、県とほぼ同じでした。英語は IRT スコアで結果が示されていますが、全国や県とほぼ同じという結果でした。

正答数の分布を詳しくみると、小学校では、国語は上位層に近い中間層が厚くなっており、算数は上位層がやや薄い状況です。中学校では、国語は上位層が厚くなっています。数学では中間層の下位よりの層がやや厚くなっています。英語の IRT スコアでは、下位層は薄いものの下位層に近い中間層が厚い傾向にあります。

内容や領域ごとの全国や県との比較については、【小学校の傾向と課題】【中学校の傾向と課題】を参照してください。

【全国や長野県との平均正答率等の比較】

【小学校 国語】

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	○	○
言葉の特徴や使い方に関する事項	○	○
情報の扱い方に関する事項	○	○
我が国の言語文化に関する事項		
話すこと・聞くこと	○	☆☆
書くこと	○	☆
読むこと	○	○

斜線部 出題なし

【小学校 算数】

内 容	全国との比較	県との比較
算数全体	▽▽	▽
数と計算	▽▽	▽
図形	▽▽	▽
測定	▽▽	▽
変化と関係	▽▽	▽
データの活用	▽▽	▽

◎ 中学校の結果概要

【中学校 国語】

斜線部 出題なし

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	☆	○
言葉の特徴や使い方に関する事項	☆	☆
情報の扱い方に関する事項	▽	▽
我が国の言語文化に関する事項		
話すこと・聞くこと	▽	○
書くこと	☆☆	☆☆
読むこと	○	▽

【中学校 数学】

内 容	全国との比較	県との比較
数学全体	▽	○
数と式	▽▽	▽▽
図形	▽	○
関数	▽▽	▽▽
データの活用	○	○

【中学校 英語】

内 容	全国との比較	県との比較
英語全体（IRT 数値）	○	○
聞くこと		
読むこと		
話すこと（やり取り）		
話すこと（発表）		
書くこと		

斜線部 資料の提示なし

※ 表中の記号の表す内容（正答率に対して）

☆☆…上回っている（+2.1～）

☆…少し上回っている（+1.1～+2.0）

○…ほぼ同じ（-1.0～+1.0）

▽…少し下回っている（-2.0～-1.1）

▽▽…下回っている（～-2.1）

IRT スコアでの比較（中学校英語）

☆☆…上回っている（+21～）

☆…少し上回っている（+11～+20）

○…ほぼ同じ（-10～+10）

▽…少し下回っている（-20～-11）

▽▽…下回っている（～-21）

【小学校の傾向と課題】

国語では、領域別で見ると、「話すこと・聞くこと」に関する事項では県を上回り、全国とは同程度の結果でした。一方で、「書くこと」は県を少し上回り、全国と同程度の結果となるものの、正答率が 50%を下回り、目的や相手に応じて自分の考えを正確に文章で表現する力の育成が課題となっています。問題形式別では、記述式は県を上回る結果を示しており、自分の考えを書こうとする姿勢がうかがえます。今後は、「書くこと」における文章構成や根拠の明確化に着目した指導を充実させ、推敲する活動を多く扱っていく必要があります。

算数では、領域別にみると、「測定」で高い正答率を示したものの、「変化と関係」や「データの活用」では正答率が低い結果となりました。特に「変化と関係」は全国を下回る課題領域となっています。

設問別では、立方体の体積を求める設問【1】(1)や小数の仕組みを捉える設問【3】(1)で高い正答率となりました。一方、基準量や比較量等の関係を表す図を選ぶ設問【2】(4)や二次元の表から条件に合う数を読み取る設問【4】(3)は正答率が低く、図の活用や多角的なデータの読み取りの育成が今後の重要な課題です。

そのため今後は、割合の数量関係を図で視覚的に捉え直す活動や、日常生活の表やグラフから必要な情報を自ら選び活用する問題解決型の学習を多く設定していく必要があります。

【中学校の傾向と課題】

国語では、領域別に見ると、「書くこと」では全国と県を上回る結果となりました。「話すこと・聞くこと」では、県と同程度であったものの、全国をやや下回りました。「読むこと」では県をやや下回り、全国と同程度でした。また、問題形式別に見ると、記述式では全国および県をやや上回りました。また、短答式では全国を上回り、県とは同程度、選択式では全国・県ともに同程度という結果になりました。

具体的な成果として、「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい

点や改善点を見いだすこと」を問う設問【3四】では、全国・県を上回りました。さらに「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと」を問う設問【3一】でも全国・県を上回っていることから、文脈や目的に応じて言葉を使いこなし、文章をよりよく整えていく実践的なことばの力が身に付いていることがうかがえます。

一方で、「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと」を問う設問【2三】においては、全国・県をやや下回りました。今後は、情報の関係性を捉え、自らの表現へとつなげる力を養うような学習活動を行うことが求められます。

数学の領域別の平均正答率では、「データの活用」は全国や県と同程度でした。「図形」では全国を少し下回り県と同程度で、「数と式」や「関数」では全国や県を下回りました。

【9(3)】「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる」設問では、全国や県の正答率を上回り、データの傾向を捉えて説明する力がついてきていることが分かります。

一方、【6(3)】「統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」設問では、全国や県の正答率を下回っているため、数量関係を捉えて説明したことを基にして、発展的な事柄の特徴を数学的に捉え直して表現する学習活動が必要です。

また、生徒質問紙(66)では「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」という質問では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」という回答率が全国や県を上回っています。「数と式」の領域においても、自分の考えを説明する活動を重視していくことで、さらに力をつけられると考えられます。

英語では、インプット（聞く・読む）面では、文法や語彙等の基礎知識が定着しており、下位層の発生を抑えた安定指導が強みです。一方で、情報を素早く処理し、ポイントを押さえながら読む力や、最上位層をさらに引き上げる発展的な指導に課題があります。

アウトプット（話す・書く）面では、日常的な ICT 活用によりスピーキングへの抵抗が低く、定型的な発話で高い成果を示しています。しかし、正確さを重視するあまり記述量が不足したり途中で断念したりする傾向があり、ミスを恐れず自分の考えを工夫して伝え切る力の育成が今後の焦点です。

（中学校・英語については、領域別の IRT スコア等は発表になっていないので、公開問題の領域別の平均正答率から考察をしています。）

児童生徒質問項目の回答から見た生活の諸側面や学習状況等

●傾向と課題

小学校・中学校ともに、学習状況や生活の諸側面に関わる児童生徒質問項目の多くは、肯定的な回答をした割合が全国や県の平均を上回っています。

生活面では、過去の調査結果と同様に「朝食を毎日食べている」や「起床・就寝時刻が一定している」という回答が多く見られます。また、SNS や動画視聴に費やす時間が、全国や県と比較して少なく、このことは規則正しい生活につながる一因と考えられます。

「自分にはよいところがあると思う」小学生は 90% 近くに上り、中学生も 85% を超える高い割合になっています。また、「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合が全国や県を上回っています。更に約 93% の児童生徒が「友達関係に満足している」としています。そして、80% を超える児童生徒は「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と答えており、安曇野市の大多数の児童生徒は、充実した日々を送っていることがわかります。

学習に関連した項目では、1 日に 30 分以上読書に取り組む児童生徒の割合（小 29.1%、中 21.9%）が全国や県を上回っています。また、月に 1 ～ 3 回以上学校の図書館を利用する児童生徒の割合は、全国や県を大きく上回っています（小 47.6%、中 51.9%）。また、30% 近い小学生が月に 1 ～ 3 回地域の図書館を利用しており、全校や県を上回る割合です。

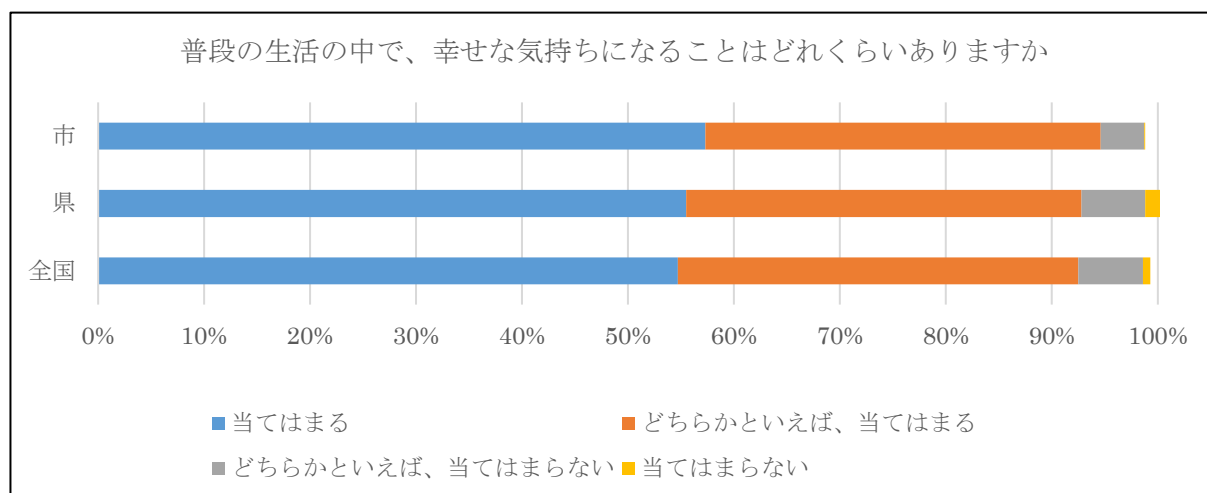
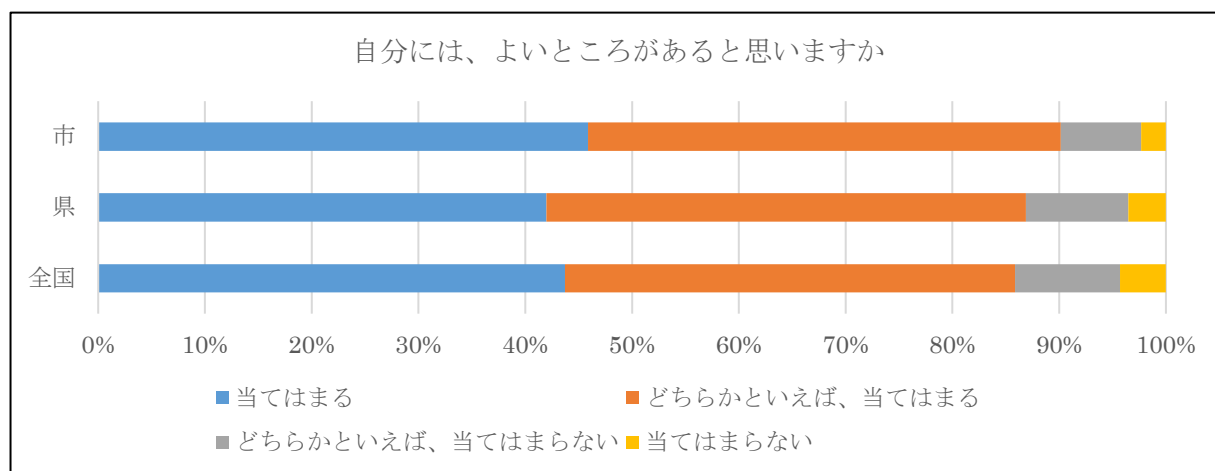
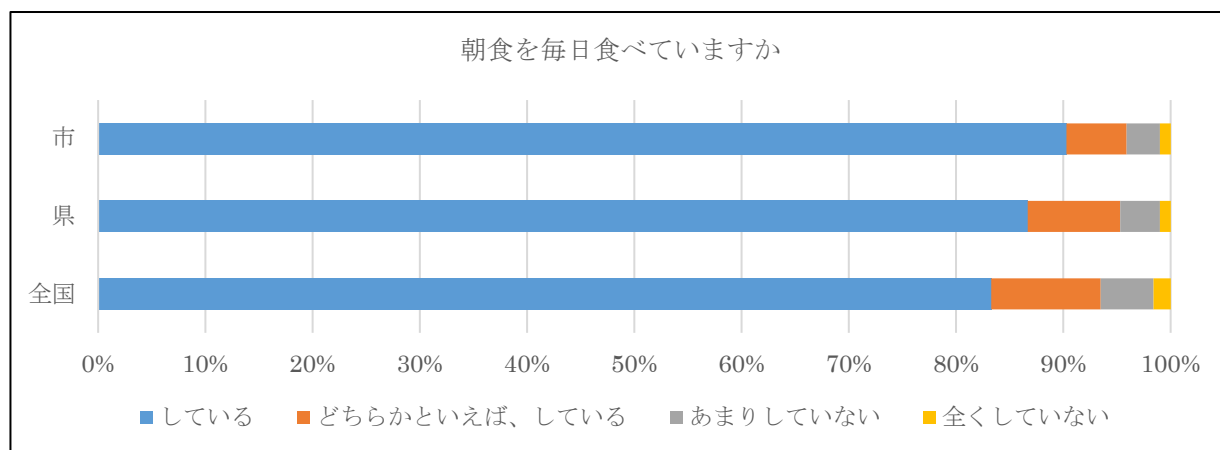
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況については、「5 年生までに（1、2 年生の時に）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童生徒の割合は全国や県を上回っています（小 82.3%、中 88.8%）。また、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」に対しても、肯定的な回答の割合が高くなっており、全国や県を上回っています（小 88.1%、中 92.1%）。この設問が設けられた令和 6 年度からの変化を見ても、これらから、児童生徒が課題解決に向けて自分の考えを持って主体的に学習活動に取り組み、話し合いを通して自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりするなど学習を深めている様子がうかがえます。主体的・対話的で深い学びが定着しつつあると言えます。

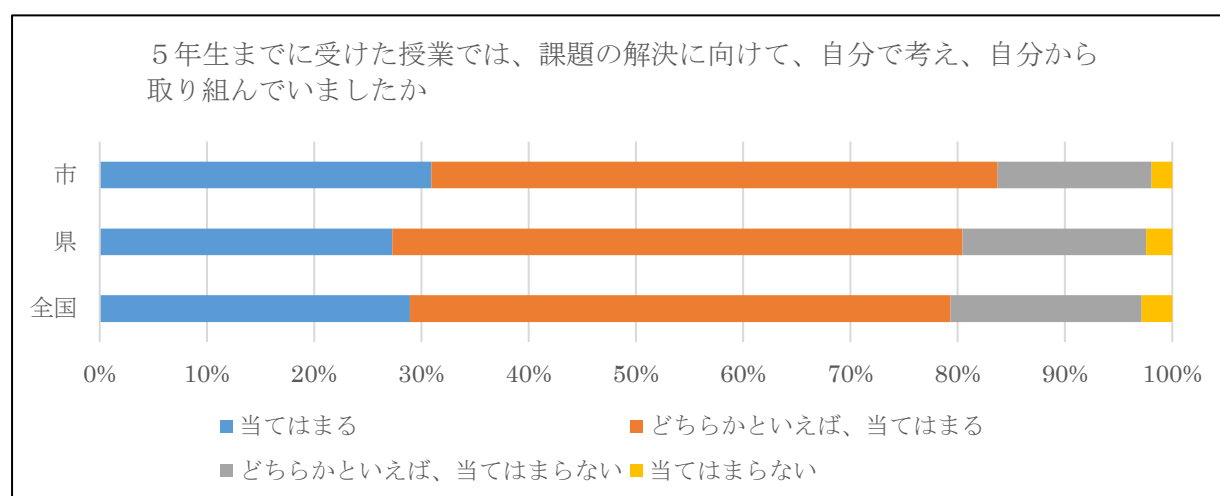
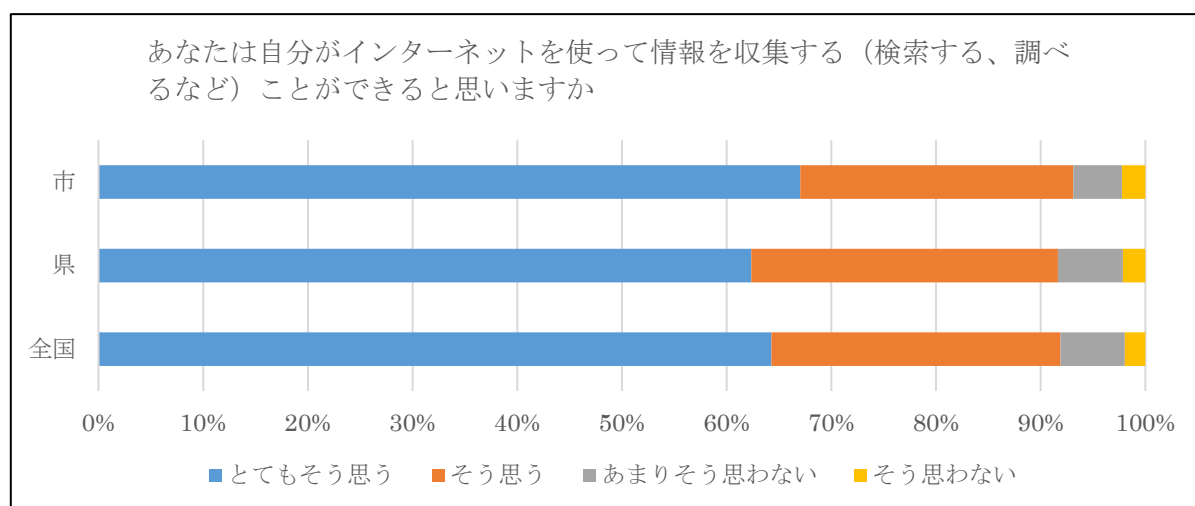
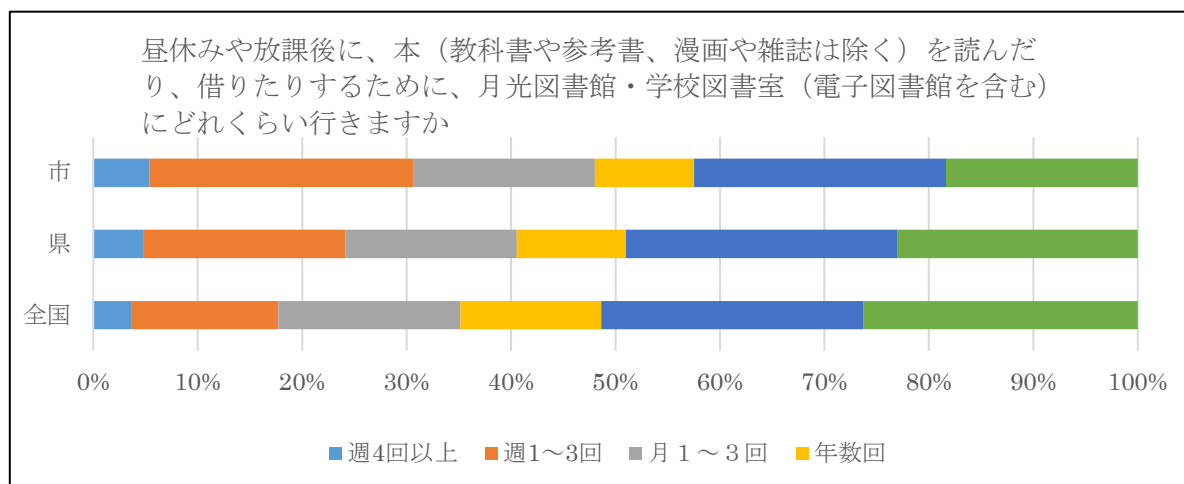
タブレットや PC などの ICT 機器を活用した学習については、学習での使用頻度を見ると小学校、中学校ともに昨年とほぼ同じ傾向となりました。具体的に見ると、小学校では週 3 回以上利用している割合は約 62% で県と同じくらいの頻度ですが、全国と比べるとやや少ない傾向にあります。一方、中学校では、ICT 機器を週 3 回以上使う割合は約 83% で県や全国を上回っており、授業で活用されていることがわかります。ICT 機器を使った情報活用の技能では、小学校では文章作成や情報収集が全国や県を上回っています。中学校では、それらに加えて、情報の整理（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）、プレゼンテーション資料の作成の技能が全国や県を上回っています。小学校で発達段階に応じて ICT 機器の活用の基礎を養い、その土台の上に中学校で必要な技能を確実に養い、ICT 機器を日常的に活用し、さらに成果を上げていくことが期待されます。

安曇野市の児童生徒の平日の家庭学習の時間については、小学校で 1 時間以上取り組んでいる児童の割合は 40% を超え、全国をやや下回ったものの、県を上回っています。中学では 1 時間以上取り組んでいる生徒の割合は 60% を超え、全国や県を上回っています。平日全く

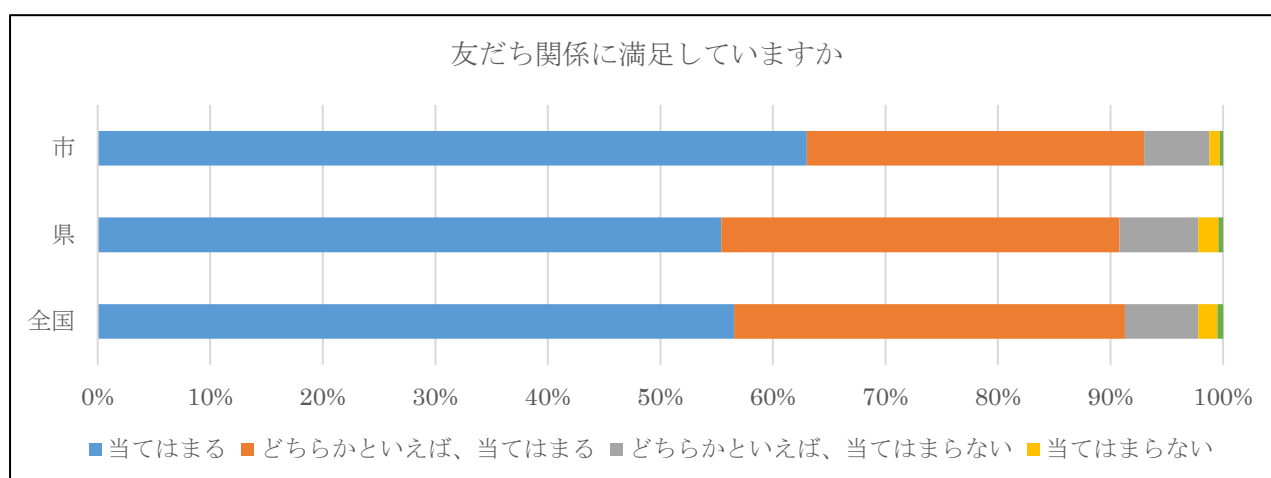
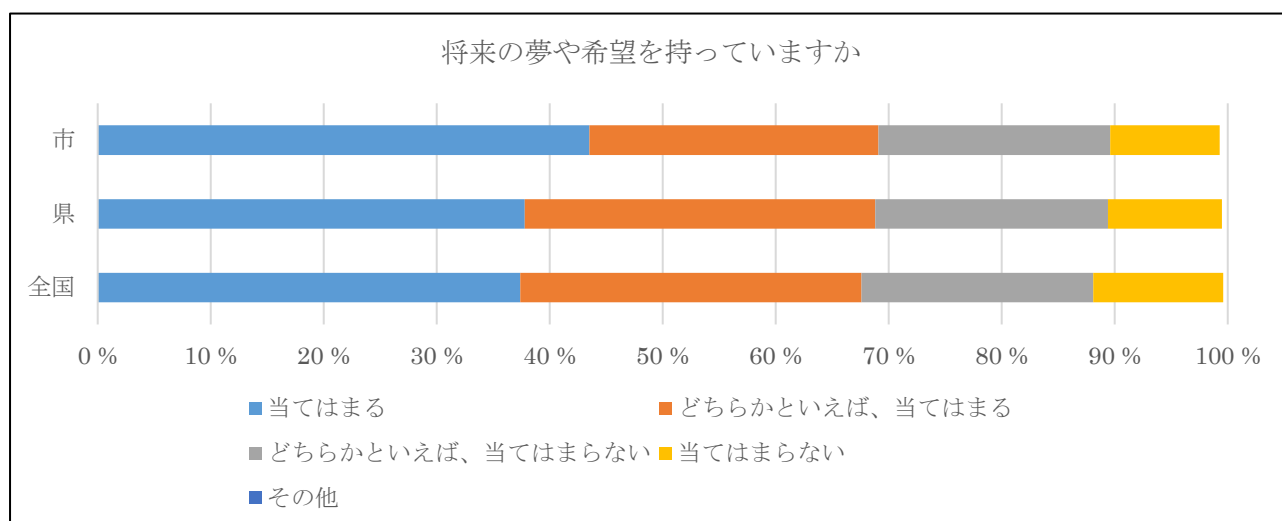
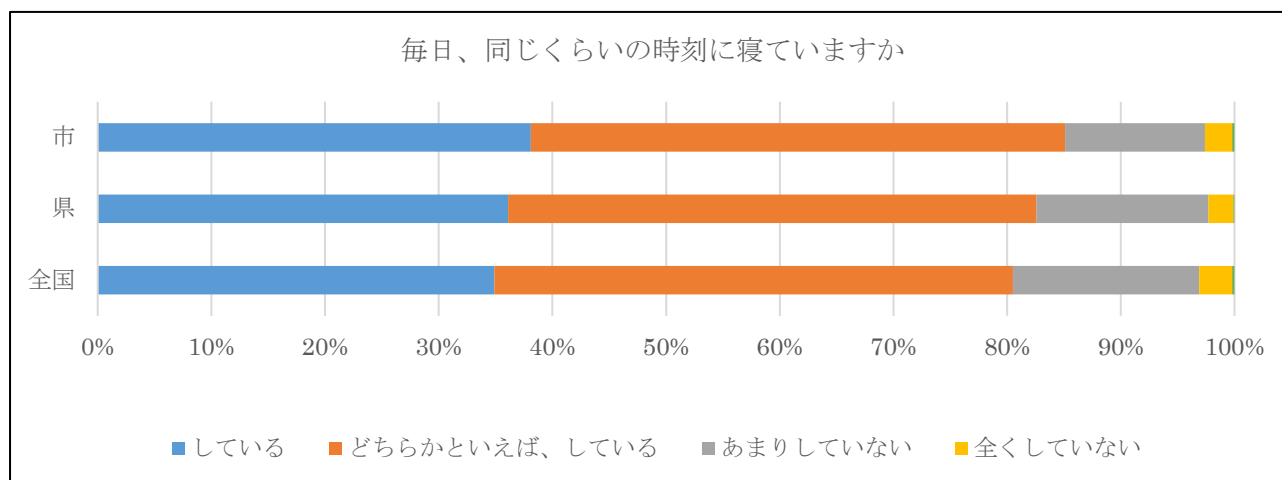
学習しない児童生徒の割合は、小学校が 2.9%、中学校が 4.5%で、全国や県を下回っており、小学校では大きく下回っています。更に、中学校では休日の家庭学習の時間は、2時間以上取り組む生徒の割合が約 37%で、全国や県を上回っています。家庭学習のあり方について、一人ひとりに合った学習が行われるように引き続き支援していきます。

【市の小学校児童の良さが分かる代表的な質問のグラフ】

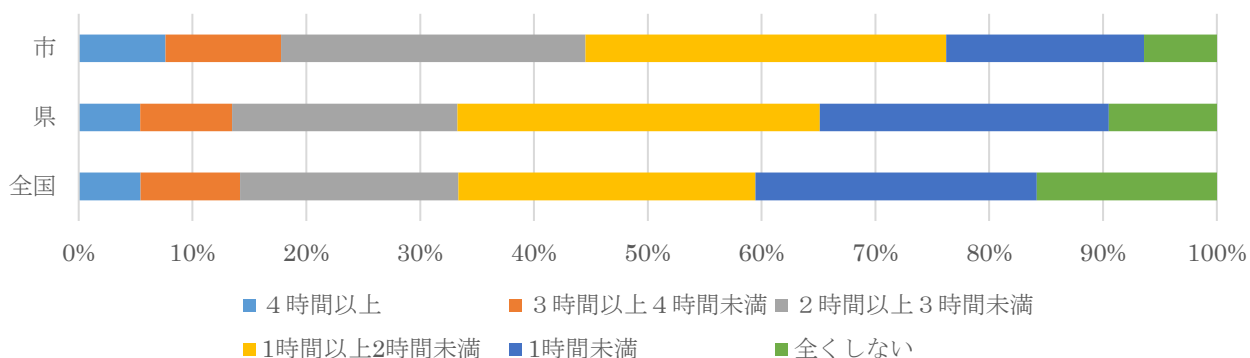




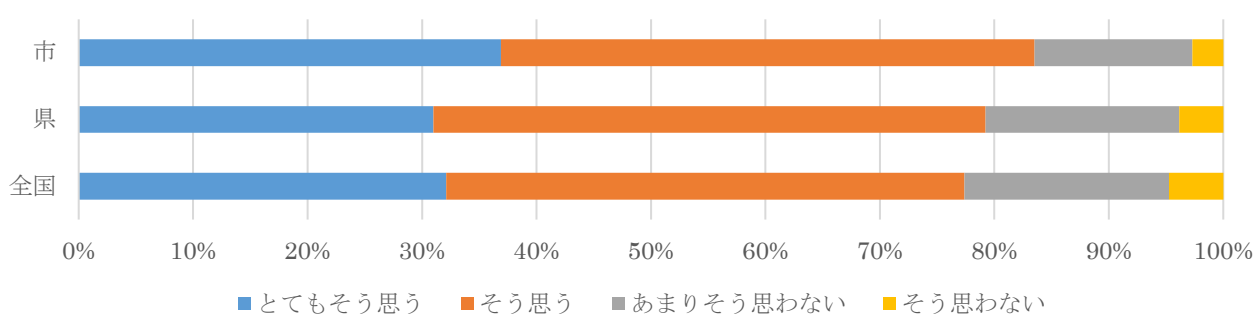
【市の中学校生徒の良さが分かる代表的な質問のグラフ】



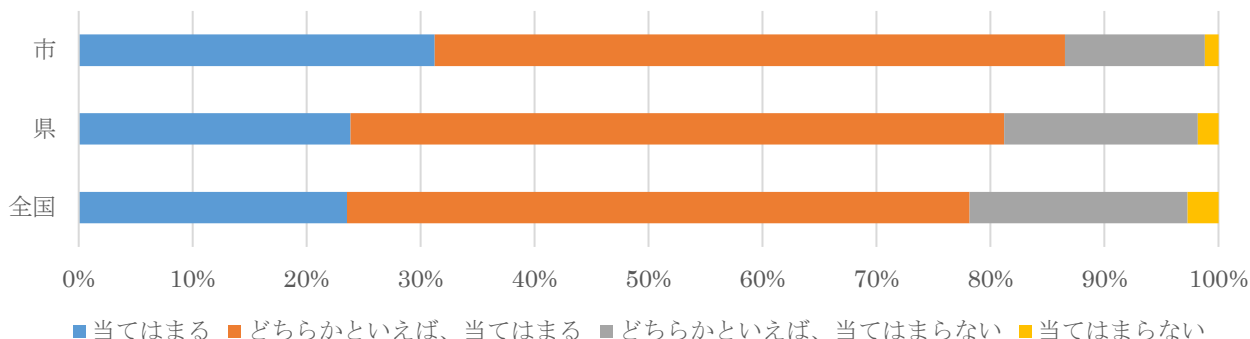
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



あなたはPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか



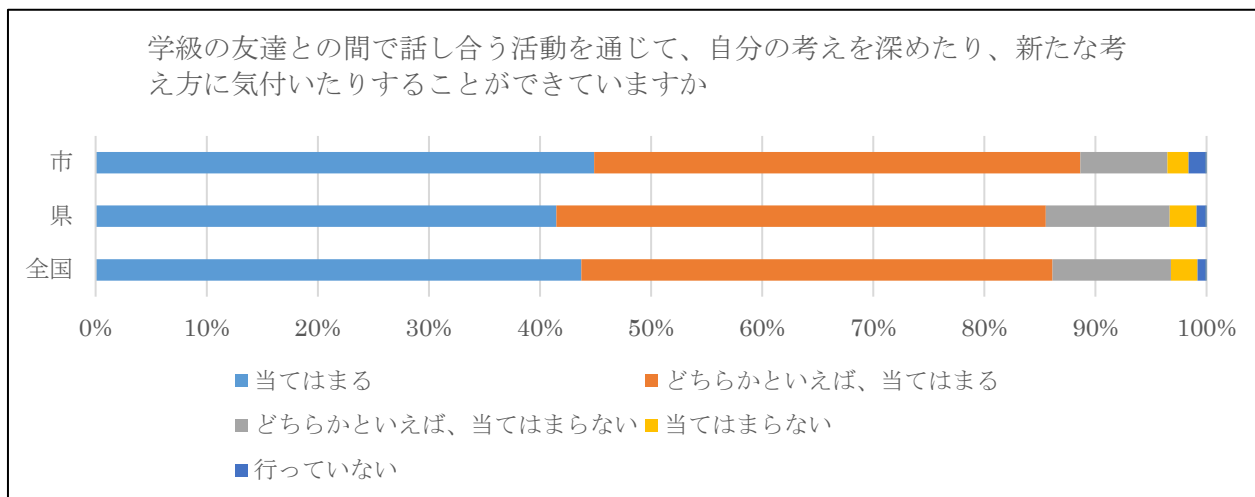
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



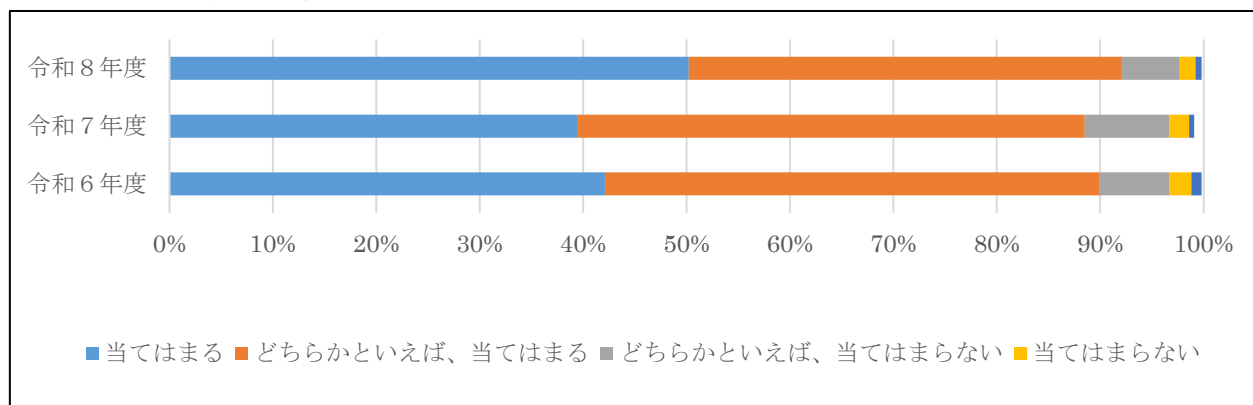
【「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」のグラフから 】

○小学生

令和8年度

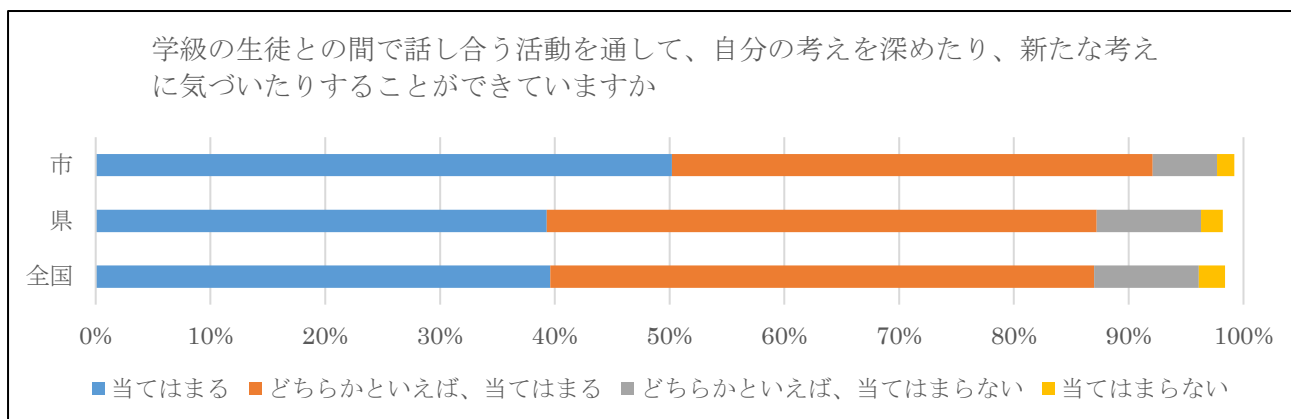


過去3年間の経年変化

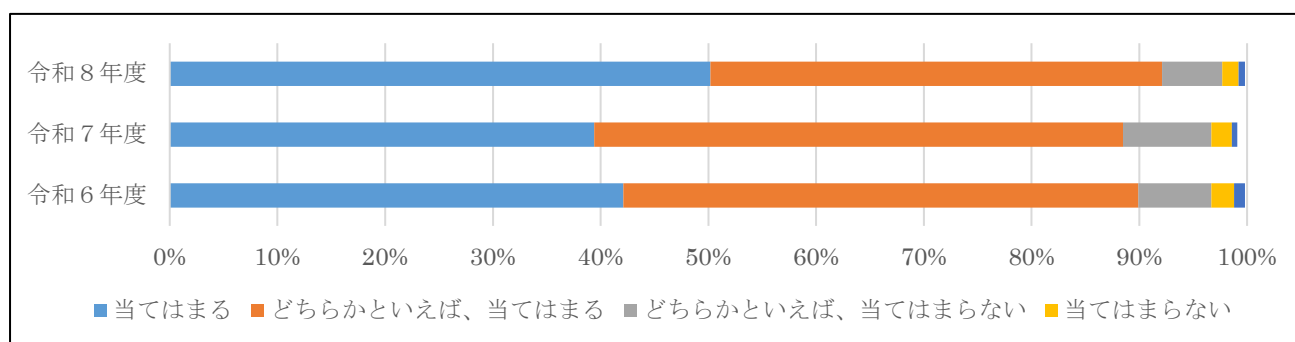


○中学生

令和8年度



過去3年間の経年変化



比較的正答率が高い傾向にある子どもの学習や生活の様子

学力調査結果と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において、より肯定的な回答をしたり特定の回答をしたりしている児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

【小学校・中学校共通】

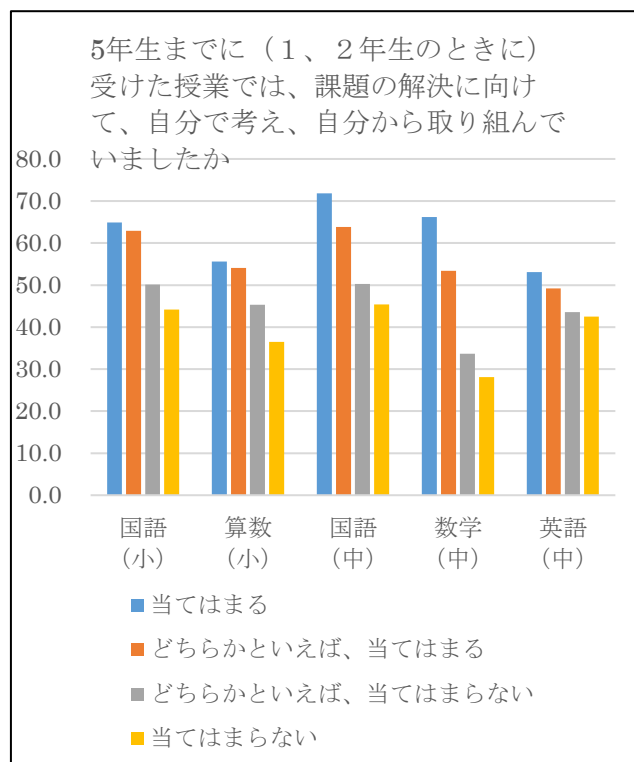
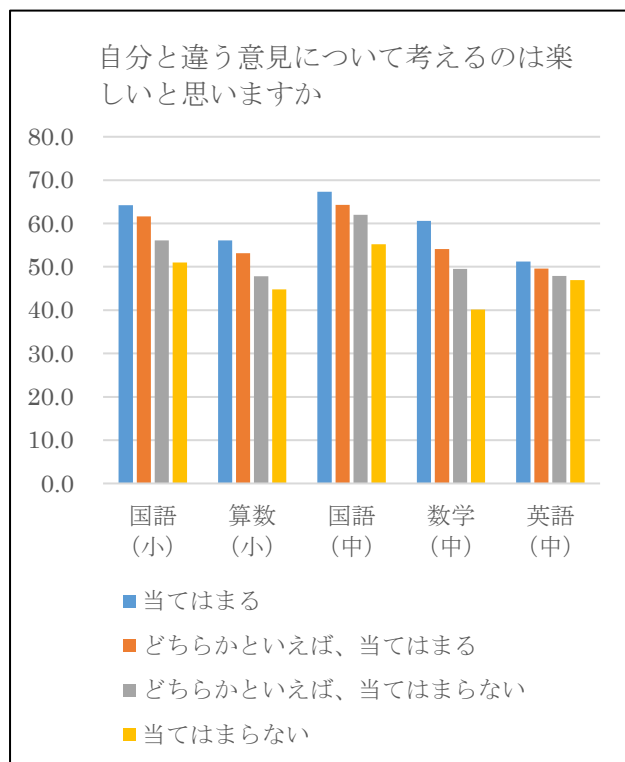
- ◇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ◇分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
- ◇地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- ◇あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか
- ◇あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか
- ◇あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか
- ◇あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか
- ◇5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ◇学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
- ◇国語の授業の内容はよく分かりますか
- ◇算数（数学）の勉強は得意ですか
- ◇算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか
- ◇5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか

◇英語の勉強は得意ですか

◇英語の勉強は好きですか

◇今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

◇今回の算数（数学）の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか



※上のグラフは、設問に対してそれぞれの回答をした児童生徒の平均正答率等を示しています。中学の英語は、平均正答率が示されていないため、便宜上、示されている IRT スコアを 10 分の 1 の数値に換算してグラフを作成してあります。以下のグラフも同様です。

【小学校】

◇人の役に立つ人間になりたいと思いますか

◇学校に行くのは楽しいと思いますか

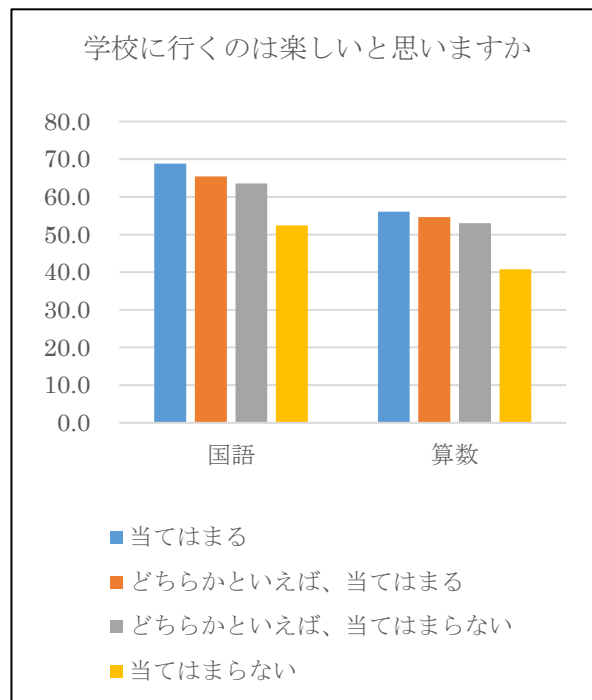
◇普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

◇5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

◇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

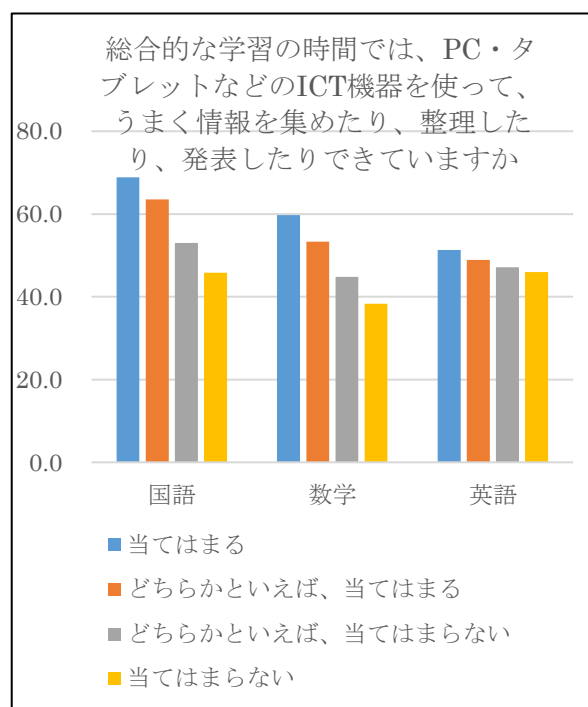
◇国語の勉強は得意ですか

- ◇国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか
- ◇5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか
- ◇5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめていましたか
- ◇算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか
- ◇5年生までにうけた授業では、算数の授業で学習したことを、普段の生活で活用できていますか
- ◇5年生までにうけた授業では、算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか



【中学校】

- ◇朝食を毎日食べていますか
- ◇学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか
- ◇先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- ◇総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか
- ◇数学の勉強は好きですか
- ◇数学の授業の内容はよく分かりますか
- ◇1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか
- ◇1、2年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかっていることを理解することができましたか
- ◇英語の勉強は得意ですか
- ◇英語の勉強は好きですか



◇英語の授業の内容はよく分かりますか

◇英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

◇キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書くことができますか

◇（今回の調査で）解答時間は十分でしたか（数学）

調査の今後の活用

安曇野市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、引き続き関係機関とも連携しながら次のような取組を行います。

市教育委員会は、

- （１）全国学力・学習状況調査の分析から見えてくる児童生徒や学校のよさや課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
 - ①「児童生徒が主役の学習」を目指した授業改善が継続できるように、各校の取組を支援していきます。
 - ・児童生徒の主体性を大切にした授業づくり
 - ・個別最適な学びを大切にした授業づくり
 - ・協働的な学びを大切にした授業づくり
 - ②市全体の「課題と具体的な改善の方向」を示し、授業改善に向けた提案をします。（学力向上推進委員会）
 - ③学校の願いに応じながら、教育指導室の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- （２）授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会とも連携して、調査・研究を行ったり、小中学校間の教職員の研修などを推進したりしていきます。
 - ①各校で開催される授業研究会や研修会に他校からも参加できるようにし、公開授業・研修会開催通知を、各校の協力を得て市内小中学校に発信していきます。
 - ②各校の優れた実践を市内小中学校に紹介していきます。
- （３）PC・タブレットなどのICT機器を活用した授業や家庭での効果的な利用方法等について、教職員の研修を推進し、各校の取組を支援します。（ICT教育推進委員会の活動など）
- （４）地域についての探究的な学びが展開できるように、「安曇野ふるさと学習」をサポートします。（拾ヶ堰見学の実施、安曇野の時間推進委員会による活動など）

各校は、

- （１）自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点に配慮します。

- ①明らかに課題があるまたは伸びている領域の問題を分析する。
 - ②正答数が低い（0～2問程度）児童・生徒の課題等を分析する。
 - ③当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、hyper-QU や CRT などの検査等と関連付けて分析し、全校の授業改善に活かせるようにする。
 - ④分析結果から、必要な補充・補完を計画し実施する。
- (2)「児童生徒質問紙」や「学校質問紙」から見えてきたよさや課題を、学校全体で共有し、教育目標実現に向けて教育活動を進めます。その具体的な取組として、学習指導では、教職員が相互に参観し合い、指導方法等の改善に努めます。
- (3) 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題に気づき、自ら改善していくことができるように、一人ひとりの児童生徒とその家庭へ具体的な指導・助言などの支援に努めます。
- ① 児童生徒への支援
 - ・授業での振り返りを大切にし、課題を意識できるようにしたり、課題解決の見通しが持てたりするように支援します。
 - ・学校生活の中で、互いのよさを伝え合う場面を設けることで、友だちから刺激を受けたり、自分との違いに気づいたりするなかで、自分自身の成長に必要な課題を発見できるように支援します。
 - ② 家庭への支援
 - ・「家庭学習の手引き」を配布したり、保護者懇談会の機会をとらえ家庭での学習について助言したりすることで、家庭と連携し児童生徒を支援していきます。
- (4) PC・タブレットなどの ICT 機器を活用した授業や家庭学習での効果的な利用に努めます。またその際は、メディアリテラシーにも十分配慮した適切な活用ができるよう指導していきます。